



今年も早いもので半分以上が経ちましたね。1年の半分以上が経過していると思うと本当に毎日が貴重に感じますが、「今日も貴重な一分、一秒、一日だったなあ」と振り返る事ができた日は今の所一日もありません。ありきたりの毎日にもっと感謝しなければなりませんね。

先日、大雨が降っていた日、保育園からの帰り道、長女、次女と私の3人でレインコートを着て帰りました。大人の足でリズムよく歩けば家まで10分程。2歳の次女が雨の中歩くと30分位かかるので迎えに行く時から「せめて雨だけでも止んでください！」と空に念を送り続けていました。

結果、見事に雨は降り続き、いよいよ覚悟を決めて帰り道スタート！！

保育園の門を出る手前にいきなりの大きな水溜まり。門を開けようと少し目を離れた途端、両足ジャンプでザブンと音を立てて水溜まりに入る次女。妹がするならばとそれに続く長女。見事に長靴の中まで水が入りビショビショに…。そこで母の覚悟は決まりました。

“よし、今日はもうとことん子ども達に付き合おう！”

そして長い長い帰り道の始まりは始まり。まずは「あめのんでみたいね〜」と2人で大きな口を開けて空を見上げ、雨の味見。大きな水たまりを見つける度にザブンとダイブし、流れ出るような排水溝を見つけては「すごいね〜！かわだ、かわだ」と大興奮で観察したり近くの葉っぱを流したり…。子ども達的に本日1番の大きな水たまりを見つけるとその場で温泉ごっこが始まりました。

そして、(母的には)ようやく家にたどり着くまでの最後の曲がり角を曲がり、あと200メートルの直線に入った時、競争でもしていち早く家にたどり着こうと企む母をよそに向かい風の突風が。その突風でレインコートのフードが被り直しても被り直しても取れてしまう次女の雲行きが怪しくなり、「かぜさんが〇〇のぼうしとっちゃう〜」と泣き始めてしまいました。さて、ついに抱っこするかと思ったら、

「え、じゃあこうやってあるくのはどう？ぼうしとれないよ〜」と後ろ歩きで進む長女。雨遊びの同志からの提案は魅力的だったようで、すんなり泣き止み、ケラケラ笑いながら後ろ歩きで進む次女。もちろん母も一緒に後ろ歩きで歩き、傍から見たらとても怪しい親子だったと思います。

長靴の中までびしょぬれでしたが、「あぁ〜たのしかった〜」と大満足の様子だったので私も何だか嬉しくて、雨の日も悪くないな〜とほっこりした気持ちになりました。

その後、寝るまでのとてつもなく慌ただしく、疲れにより変な自己主張満載のお子様方との時間には鬼母の登場があった事はまたゆっくりと…。中々全てが上手く行く事なんてありませんね。毎日の育児お疲れ様です！

